

と盛り合わせて出来上がりだ。ソースは中濃がウスターで、練りからしがあるとなお結構。うへーよだれが出てきてしまった。新鮮な手作りは美味しいのだが、お手軽に楽しみたい人は業務スパーに行つて冷凍を買つてください。これももうまいよ。目の付け所が業務スパーやるねー。

「なかなか行けなかった 平泉寺白山神社」

以前にへろへろになりながらやつと登つた白山。白山とは白山信仰という信仰の山だつたのです。奈良時代から各地の霊峰が山岳信仰の聖地となりました。装備もなく、林道もなく、いく山も越えていく奥深い霊峰へお参りするのには、修業を積んだもののみには許されません。その為霊峰のふもとには、登れない信仰者・巡礼者の為の信仰神社が出来ました。福井県勝山市にある平泉寺白山神社もその一つです。その白山神社の近くまで行きながら大したことはないやると2回も見送つていた大ちゃん。どうしても行きたくなくて昨年わざわざ訪ねました。姫路から車で4時間で到着。参道

の入り口に下馬大橋なるものがあつた。下馬といつたら車を降りるつてこと？中まで入つて良いのかなという雰囲気。参道を車で行く。まだかまだかと思うほど奥深い参道が続く。比叡山くらの模範であり、比叡山に比喩するやいなや蕎麦屋まつやの看板に引き寄せられる。『まづは腹ごしらえやなあ』と、家族で合意。ビールと蕎麦を注文。やつぱ深山で食べる蕎麦は美味いねえ。次はお参りの前に、歴史探遊館まほろばへ行く。ここで平泉寺白山神社の歴史を勉強です。奈良時代717年に泰澄が白山へ登るうとこの地に社を開きました。中に世は源氏の木曾義仲の味方。室町時代に足利朝は味方し、北朝につぎ、南朝方新田



義貞はこの地で没した。室町時代後半の最盛期には若や堀を備え、全山石垣に囲まれた要害へと変貌し、東西1.2キロメートル、南北1キロメートルもの範囲に、南谷3千6百坊、北谷2千4百坊、48社、36堂、6千坊の院坊を備え、僧兵8千人を抱える巨大な宗教都市を形成した。云わば宗教大名です。戦国時代に入り、一向一揆勢と戦い油断したすきに平泉寺はすべて灰に焼かれた。その後復興して、幾度となく時代に登場した有力な寺であります。また、霊峰白山へ登る道を禅定道（せんじょうどう）と呼ぶ。禅定道の起点は修行の起点でもあり、その場所を馬場（ばんば）と呼ぶ。白山信仰での加賀馬場（白山比咩神社）、越前馬場（平泉寺白山神社）、美濃馬場（長滝白山神社）などがある。また富



して山の対象とされ、山地に於いて修行する者も現れ、それらは後に修験道へと発展していった。また頂上の白山神社をわが地のものと越前・加賀・美濃が争いました。幾度となく頂上の所有権を時の有力者が裁定していった。そんな歴史が読み解ける『まほろば館』です。知識を得てからめぐる白山平泉寺はより素晴らしい。苔むした参道を進むと関西にない北陸の風情が感じられる。『どんなん？』そうなんです。北陸はいつもうす暗いんです。霧とか苔が似合うんです。そんな参道を進むと苔むした杉林の中に凜とした本社があります。お参りした後は、遺構となつた南谷・北谷を訪ねましょう。今も寺家町に在住の地元の人たちにごあいさつすると、歴史の古今永久を感じずにはいられませんでした。福井県の大野勝山地区は福井大仏・大野城・勝山城・恐竜博物館・永平寺などがあります。皆様もぜひお訪ねください。

